

令和5年9月19日

お知らせ

	文化振興課	(公社)岡山県文化連盟
担当	岸本	中西・高田
内線	3145	—
直通電話	086-226-7903	086-234-2626

「文化芸術交流実験室」参加者募集中！

公益社団法人岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」では、「文化芸術交流実験室（トークセッションとワークショップがセットとなったシリーズ企画）」を実施しますので、ご興味のある方は奮ってご参加ください。

記

1 文化芸術交流実験室（トークセッション&ワークショップ）

各回とも定員20名、ランチ付き（1,000円）

申込フォームに必要事項を記入の上、申込。

今後の開催予定

○実験室 vol.43 「美食地質学：この地域の食はなぜ美味しいのか」

日時；9月24日（日）11：30～16：00

講師：巽 好幸（ジオリブ研究所所長）

岡嶋 隆司（犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム事務局長）

場所：渚の交番 ひなせうみラボ（備前市日生町日生3518-5）

特記：おかやま文化芸術アソシエイツプログラム・コーディネーターである金孝妍（キム ヒョヨン）氏が初めて企画・監修

○実験室 vol.44 「溶け合う異文化：自然の一部として「個」を考える」

日時；10月8日（日）12：00～16：00

講師：今福 龍太（文化人類学者）、岩本 象一（音楽家、ガムラン演奏家）

場所：犬島自然の家（岡山市東区犬島119-1）

○実験室 vol.45 「ことばのおと、おとのことば」

日時；11月26日（日）11：00～16：00

講師：川瀬 慈（映像人類学者）、ハブヒロシ（アーティスト、遊鼓奏者）

場所：喫茶さざなみハウス（瀬戸内市邑久町虫明6539）

2 申込及び問い合わせ先

おかやま文化芸術アソシエイツ事務局（岡山県文化連盟内）

岡山市北区天神町8-54 岡山県天神山文化プラザ3階

TEL 086-234-2626 FAX 086-234-8300

申込みフォーム：<https://o-bunren.jp/koreoka2023/#form>

（※）「文化芸術交流実験室」

岡山県内の様々な取組を分野横断する交流のプラットフォーム。各回がトークセッションとワークショップがセットとなったシリーズ企画で、県内の人材や文化資源の領域横断を誘発する出会いの場の創出とネットワーク構築を目指して実施。

文化芸術が日々生み出される場所と、そこで創作や生活をしていく表現者に会い、現場にはどんな仕事道具があります。日頃私たちが踏み入れることのないプライベートな現場に、どんな仕事道具があります。ようすを踏み入れることのないプライベートな現場に、どんな仕事道具があります。ようすを踏み入れることのないプライベートな現場に、どんな仕事道具があります。



お申込み・お問合せは
WEBフォーム or お電話にて
TEL 086-234-2626
https://o-bumren.jp/koreoka2023

実験室45 ◀ ことばのおと、おとのことば



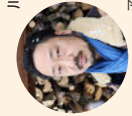
日本語には「カリカリ」どころどころといった音を表現した擬音語「びよんびよん」「くるくる」など、動きや状態を表す擬態語があり、心揺さぶる表現の美しいことばだと思います。言葉が詩になり音楽となる即興的な楽しみ方をすすめるユニークな文化に出会いました。

エチオピアの吟遊詩人・楽師の人類学研究をされている川瀬慈さんと音楽活動や色んな場所で、様々なジャンルを駆使しながら対話のプロセスを形にしているハムヒロシさんを講師に迎え、言葉と音に関する其々の活動経験とともに異文化の出会いやそこで見てきた母国の言葉の形などについてお話ししていただきます。私たちが使っている言葉について考えた時間を持つことで、新たな世界が見えてくるかもしれません。

[日時] 11/26(日) 11:00-16:00

[会場] 喫茶さざなみハウス(瀬戸内市久田町6539)

[分野] 音楽、教育、歌



川瀬 慈(かわせ じつし) | 1977年岐阜県生まれ、歌人、詩人、音楽学者。国立民族学博物館准教授、エチオピアの吟遊詩人の研究に基づき、詩、小説、映像作品、パフォーマンス等、既存の学問の枠組みにとらわれない創作活動を行う。著書に『ストリート』の精霊たち』『歌犬へテロトピア』『セントロ』アエトピア高原の吟遊詩人うたに生きる者たち』『ウエストロ』アエトピア高原の吟遊詩人うたに生きる者たち』『ウエストロ』アエトピア高原の吟遊詩人うたに生きる者たち。イン学術誌TRAEKTORIAを2019年に創設し、編集長を務める。



ハビロシ | アーティスト/遊藝家/NPO法人丹田呼吸法普及会理事/京都大学大学院医学研究科特任研究員/医師。インドネシアでのガムラン修行やセネガルでのサバール・ドラム修行、暹羅のパン・バンドのバンド活動、関ジャニ∞や台湾居住民とのレコーディングなど、様々なジャンルで活動した後、地域おこし協力隊として岡山の高梁市へ徒歩移住。2022年、ハーバード大学で社会疫学の研究をするため渡米。芸能の現在性、出会いと対話のプロセスを形にし、ある種の詩/沈黙のような瞬間に触れるようなコミュニケーション(死者/未来/風土等含む)を巡るアートプロジェクトに専攻。

実験室44 ◀ 溶け合う異文化：自然の一部として『個』を考える



写真：KOSAC

文化というのは自然環境と人間の営みで混ざり合い、様々なバリエーションをもち生まれてくるものです。全世界的に、今、自然や生態系のある自然を問い直している中、身近に触れる自然と調和することについて考えてみるのはいかがでしょうか。

今回お招きする『クレオレオリズム』の著者・今福龍太氏は、1980年代初頭からメキシコ、カリブ海、アメリカ南西部、ブラジルなどに滞在し調査研究され、さらに奄美、沖縄、台湾をめぐり、島に遊動的な学びを求めた(奄美自由大学)を創設し主宰するなど、長年、溶け合う異文化について考えてこられた方でもあります。彼の著書の中に『ヘンリー・ソロー野生の学舎』があります。アメリカの思想家ヘンリー・ソローが愛した「エトリアン・ハーブ」(風で奏でる弦楽器)から触発され講師の三線演奏や世界のフルート体験など、いっしょに違う角度で音に触れる機会を設けました。もう一人の講師として、インドネシア国立芸術大学ジョグジャカルタ校に留学し、ガムラン演奏者であり音楽家として活動されている若木義一さんを招いて、インドネシアでの経験やガムランについてのお話、世界共通語である音楽から見た交差する異文化のことを聞かせていただき、二人の講師の異なった場所の異文化の経験談から共通する人間本来の原初的姿について考える時間を過ごしてみます。

[日時] 10/8(日) 12:00-16:00

[会場] 大島自然の家(岡山市東区本島119-1)

[分野] 文学、アート、教育、音楽、伝統芸能



今福 龍太(いまふく りゅうた) | 文化人類学者・批評家。1955年東京生まれ、湘南の海辺で育つ。1980年代初頭からメキシコ、カリブ海、アメリカ南西部、ブラジルなどに滞在し調査研究に従事。その後、国内外の大学で教鞭をとったり、2002年より奄美・沖縄、台湾を幅広く踏破。島に遊動的な学びを求めた(奄美自由大学)を創設し主宰。著書に『ヘンリー・ソロー野生の学舎』(讀文堂文庫)、『富沢賢治の歌』(歌川野田学芸賞)、『ぼくの思ふ先生の先生たちへ』(多読)、『クレオレオリズム』、『世界論』を含む新刊著作のコレクション(『ムルティエ』)全5巻が2018年に完結。



若木 義一(わかぎ じついち) | 1983年生まれ、神戸出身。2005-2008年インドネシア政府奨学金を得てインドネシア国立芸術大学ジョグジャカルタ校に留学。ガムラン演奏や舞踏を習う。帰国後、神戸のジャワガムラングループ代表を経て岡山に移住。2010年より兼通型にてガムラン教室を開講。インドネシア語通訳や翻訳も行っている。

実験室43 ◀ 美食地質学：この地域の食はなぜ美味しいのか



おばあちゃんやお母さんが作る料理は他と比べられない美味さがあります。それは、料理の味だけではなく、人と食材と場所、環境や人との関係性から形成される個人の温かい想いからくるものでしょう。人や場所と離れた時に郷愁を感じるのも、自分が慣れ親しんで育まれたその愛情があるからではないでしょうか。

私たちの住む岡山県は、恵まれた気候と繋がりに美味しい果物や食材がよく知られています。瀬戸内の多島海と山が連なる豊かな環境と食の関係を地球の中身から探る機会を設けました。

今回、マダム学者であり、美食地質学の創始者である栗好さんと古典料理研究家であり、大島島嶼調査保護プロジェクトチーム事務局長を務めた岡崎隆司さんを講師に迎え、岡山県独自の食文化と食の関係を地質学的、食文化史的な視点から紐解いてみたいと思います。

[日時] 9/24(日) 11:30-16:00

[会場] 酒の交番 ひなせうみろ(備前市日生町3518-5)

[分野] 食、科学、歴史、教育



栗 好幸(つみよしゆき) | ジオリア研究所 所長。1954年大阪生まれ。理学博士(東京大学)、京都大学総合人間学部教授、同大学院理学研究科教授、東京大学海洋研究所教授、海洋研究開発機構プログラムディレクター、神戸大学海洋惑星センター教授、岡山大学高等研究海共生研究アライアンス長などを歴任。水産地球の進化や超巨大火災のメカニズムを「マグマ学」の視点で考えている。主な一般向け著書として「富士山大噴火と阿蘇山大噴火」(幻冬舎新書)、「地震と噴火は必ず起こる」(新潮選書)、「和食はなぜ美味しい」-日本列島の贈り物(岩波書店)など、NHKスペシャル「ジャパニ」シリーズ、MBS「情熱大陸」など出演。監修、多数。



岡崎 隆司(おかじ たかし) | 考古学と食文化史を研究。大島島嶼調査保護プロジェクトチーム事務局長・日本古典料理協会副会長、日本動物考古学会会長、岡山県遺跡調査推進協議会副会長、食文化史研究、日本古典料理研究、樹理人、日本料理に携わりながら伝統と仕立を古典料理や古食立などから研究。また文藝と道楽から出土する食物残滓から当時の食文化を研究している。「表書院」での食生活について、岡山城本丸跡中の段段掘調査報告(岡山市教育委員会、1997年)、「郷土料理」(大塚の岡山ガイド)-こだわりの歩き方(岡山大学文明動態学研究所編、(昭和堂、2023年)その他多数寄稿。

実験室42 ◀ 訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場⑥ オペラの練習風景から



このシリーズでは、文化芸術が日々生み出される場所と、そこで創作や生活をしていく表現者に会いに出かけます。日頃私たちが足を踏み入れることのないプライベートな現場には、どんな仕事道具があり、どのような手順で創作をしているのでしょうか。訪問実験室の映像や登場する人々の言葉を通じて、これまで関わりがなかった分野に、突如、興味が湧くかもしれません。進むべき道に迷っている学生の方々にも、おすすすめです。

シリーズ6回目は、何となく素人には数居の高いオペラの舞台裏のぞき見します。岡山市内にあるルネサンスホールでは、大学などで声楽の専門教育を受けたのち、地域で活動する声楽家の皆さんが改めてオペラを学び、その成果を発表する実践型のアカデミー「アルテ・ジュニカ」に取り組んでいます。アテロによるプロのためのオペラ指導の現場では、何が起きているのでしょうか。現状に満足せず表現者として常に高みを目指し続けるための工夫に迫ります。登場人物のイメージを膨らませ、作曲家の意図する表現に近づいたための絶妙な言葉かけや具体性のある指示内容は、どのくらい共感できるものか。練習風景を知ることによって、オペラがぐっと身近に感じられるはずです。

[分野] 音楽、歴史、語学、美術

[形式] YouTube配信(岡山県文化連盟公式チャンネル)

[OKAYAMA CULTURE VJにて近日配信予定]

ルネサンスアカデミー アルテ・ジュニカ(舞台表現) オペラ部門 岡山県在住の若いアーティストの育成及び公演のクオリティ向上のための研修を行い、舞台表現に欠かせない技術・表現法を現地的、実践的な学習で、即興力に育つアーティストを育成することを目的として、平成29年11月スタート。Made in OKAYAMAの本格的なオペラの開催と、アーティストが岡山県でも生活できる環境を目指して、一年間、毎週のようにレッスンを続け、その集大成となる修了公演を行っている。



これまでに実験室の様子をWEBサイトで公開中
「文化芸術交流実験室」で検索!
https://o-bumren.jp/labo/